

## 診断に対する考え方と支援

### 教師は診断できないことに気をつけよう

最近『軽度発達障がい』についての本がたくさん出版されるようになるました。気になる行動のある子どもたちと過ごしていると、つい「ADHDみたい」「高機能自閉症かな」と障がい名をつけたくくなります。

確かに、障がいの状態や有効な支援策を知ることは、子どもたちの気になる行動の解決につながるがあります。また、「私の育て方が悪かったのでは…」と悩んでいる保護者の気持ちを楽しめることもあります。

しかし、診断できるのは医師ということに気をつける必要があります。出版物を読み、子どもの行動の特徴が障がいの特徴に似ているからといって、障がい名を断定することは教師にはできません。子どもや保護者にとっては一生のことですから、「診断を受けたい」という希望やその必要がある場合には、専門機関へと紹介をしましょう。

教師は、診断が  
できません。  
気をつけて



### 障がいの特徴と支援を知ろう

文部科学省の調査（平成14年）では、小・中学校に、知的発達に遅れはないものの学習面や行動面で気になる子どもたちは全体の6.3%いることがわかっています。この調査により、支援の必要な子どもたちがたくさんいることがわかりました。

この調査は『軽度発達障がい』の子どもたちを調査したものではありませんが、『軽度発達障がい』の子どもたちが含まれていると考えられ、その後、様々な取組がなされ、子どもたちへの有効な支援がわかってきました。

私たち教師は、診断を下すことはできませんが、障がいの特徴を知り、有効な支援についての理解を深める必要があります。

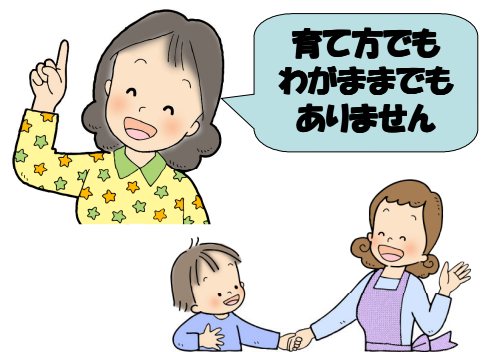
### <軽度発達障がいとは>

正式な医学用語ではありませんが、主に、「ADHD（注意欠陥多動性障がい）」「高機能自閉症」「アスペルガー症候群」「LD（学習障がい）」などを含みます。

「軽度」とはいつでも、子どもたちの示す問題が軽いという意味ではなく、知的発達の遅れが軽度から正常であるという意味で使われています。

子どもたちの行動は時として「わがまま」「わざとして」ように受け取られることがあります。しかし、行動の原因は脳の問題であるとい

育て方でも  
わがままでも  
ありません



うことをしっかりと認識する必要があります。中枢神経系の機能に問題があると考えられ、決して家庭の育て方、保育の在り方などの環境の要因などではないこと、性格などの問題でもないことを理解しましょう。

## <ADHD（注意欠陥多動性障がい）>

Attention-Deficit Hyperactivity Disorder を略したことばです。文部科学省の定義では『年齢に不釣り合いな注意力や衝動性、多動性を特徴とする行動の障害で、社会的な活動や学業の機能に支障をきたすものである』としています。

ただし、知的な障がいではなく、次のような特徴があります。

### ①不注意

- ・集中力がない
- ・うわのそらで、ボーっとしている
- ・音が聞こえるなど外からの刺激ですぐに気がそれる
- ・忘れ物や物をなくすことが多い など

### ②多動性

- ・じっとしていない
- ・しゃべりすぎる
- ・すぐに走り出す
- ・高いところへ登る など

### ③衝動性

- ・教師が話している途中で答える
- ・順番を待てない
- ・待つことが苦手
- ・我慢ができにくいので、友だちの遊びを邪魔するように見える など



## 支援のポイント

○おおらかな気持ちで接しましょう。

気になる行動が続くと「またしたの」「何度言ったらわかるの」とつい子どもに厳しい対応をしがちになります。すると、子どもは「先生、怒ってばかり」という気持ちになり、信頼関係をつくりにくくなります。子どものしている行動は『わざとではない』ということを思い起こしておおらかな気持ちで接するようにしましょう。

○名前を呼ぶなど集中できる工夫をしましょう。

お話をするときには、実物や絵など興味を引くような物を準備し、教師の顔の近く

でその物を見せるようにすると教師のお話に集中しやすくなります。さらに、時折名前を呼んで集中できるよう配慮したり、話を短くしたりする工夫をしましょう。また、気が散りやすい子どもたちですので、教室環境も過剰にならないよう配慮しましょう。

- 我慢するめやすを示し、できたらほめましょう。  
我慢することが苦手ですが、短い時間なら我慢できることもあります。「10数えるまで待つ」「あと2人だね」などと我慢のめやすを示しましょう。我慢できるだろうと思われることから始め、我慢できたらおおいにほめて自信をもたせることが大切です。



- 短く叱り、よい行動を知らせましょう。  
友だちとのトラブルなど注意しなければならないこともあります。しかし、「どうしてしたの」「○○ちゃんはどう思ったの」などとたくさんの内容を尋ねたりくどくどと叱ったりしては、叱られたことが印象に残り、どうすればよいのかが伝わりません。「嫌なときにお友だちを叩いてはいけません。『○ちゃん、やめて』って言ってね」とだめなこととよい行動を伝えるようにしましょう。  
また、叱るときは個人的にしかり、ほめるときはみんなの前でほめるようにするという配慮も大切です。

### <高機能自閉症・アスペルガー症候群>

教育相談の中では「なんとなく違う子ども」と表現されることが多いのが、この子どもたちです。雰囲気になじめない様子や友だちとうまくかかわれないことがみられるようです。文部科学省の定義では、『3歳位までに以下の行動の特徴が表れ、知的発達の遅れを伴わないものを高機能自閉症、さらに、知的発達の遅れとことばの発達の遅れの双方を伴わないものをアスペルガー症候群』としています。

#### ①社会性の障がい（他人との社会的関係の形成の困難さ）

- ・一人で遊ぶことが多い
- ・人の目を見たり、表情を使ったりすることが少ない
- ・人の気持ちを理解するのが苦手
- ・友だち関係を作ることが苦手
- ・友だちと興味や関心を共有しにくい

②コミュニケーションの障がい（ことばの発達の遅れ）

- ・なん語、ジェスチャー、指さしなどの発達の遅れ
- ・自分から話しかけたり、会話を続けることが少ない
- ・おうむ返しが多い
- ・気持ちのこもらない話し方や抑揚の少ない話し方をする
- ・冗談や比喩が通じず、ことば通りに受け取る
- ・相手や場に合わせた話し方ができにくい

③興味や関心の偏り（興味や関心が狭く特定のものにこだわること）

- ・特定の物を持つことにこだわる
- ・感触を楽しむ
- ・日課や習慣などの変更に対して抵抗を示す
- ・同じ遊びを繰り返す
- ・ごっこ遊び、見立て遊びが苦手
- ・物を並べる など

### 支援のポイント

○落ち着くことができる環境を作りましょう。

音や匂いに対して過敏だったり、環境の変化に敏感だったりするために、大きい集団の中で耳を押さえていたり、教室から出て行ったり、大きな声の友だちを嫌がったりすることがあります。どのような音や匂いなどが嫌なのかを観察により見極める必要がありますが、大きな声や音が嫌な場合には、静かな環境を保つようにする、集団の端に座らせるなどの配慮が必要です。

○ことばかけは短く、教師が統一したことばをかけましょう。

ことばや状況の理解がやや苦手なことがあります。「お外に出ましょう」「お庭で遊ぼう」と同じ意味を示すことばを同じだと理解するのにやや時間がかかったり、とまどったりします。短いことばで、同じことばで話しかけるようにしましょう

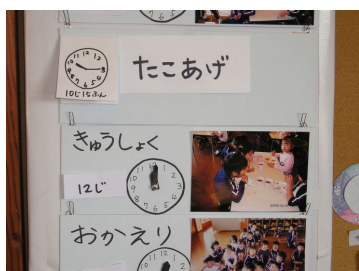


○活動の流れを視覚的に伝えましょう。

目で見て理解することが得意な子どもたちが多いので、ことばだけでなく、実物や絵、写真などで次に何があるのか、この行事は何をするのかを伝えましょう。昨年度の行事の写真などを使うと便利です。

〔支援のポイントを活用した事例〕 年長・男児 診断名：アスペルガー症候群の傾向

### 写真を利用したスケジュール



### 実物を利用した片付けの仕方



○パニックには冷静に対応しましょう。

曇っていてプールができないなど予定が変更されると落ち着かなくなることがあります。そのようなときには、教師が大きな声で制止しようとする、子どもはさらに大きな声を出すことがあります。たんとんと冷静に対応し、落ち着くまで待つようにしましょう。

また、怪我をする心配があるときには周囲のものを片づけたり、物の少ない場所へ移動させたりするような配慮が必要です。担任が子どもにかかわると他の子どもたちが待つこととなりますので、園内の他の教師の協力も必要です。

さらに、「あまり落ち着かないので泳がせたら」などと譲ると、子どもにとってはパニックを起こすと要求がかなうということになり、さらに頻繁にパニックを起こすこともあります。譲らないという姿勢で対応し、落ち着いたら「がまんできたね。えらい」とほめましょう。

## < LD (学習障がい) >

Learning Disabilitiesを略したことばです。文部科学省の定義では『基本的には全般的な知的発達に遅れはないが、聞く、話す、読む、書く、計算するまたは推論する能力のうち特定のものの習得と使用に著しい困難を示す様々な状態を指す』としています。明らかになってくるのは、就学後であり、LDの子どもたちが示す状態は幼児期の子どもたちに共通して見られる状態であることが多いため、気をつけなければなりません。他の子どもたちと比べて、次のような行動が特に顕著な場合は配慮が必要です。

- ・聞きかえしが多い
- ・ことばがスムーズに出にくい

幼児期には、同じような行動がみられるので、注意しましょう





- ・文字や数字に関心を示さない
- ・絵が描けない
- ・不器用で体のバランス感覚が極端に悪い など

### 支援のポイント

#### ○気長に対応しましょう。

何度も聞き返したり、ことばがスムーズに出ないので、「何度も言ったよ」「もう一回言ってごらん」と注意されることが多くみられます。そのために、自信をなくし、話さなくなるなど引っ込み思案になってしまうこともあります。

聞き返されたら易しいことばで再度説明する、お話につまっていたら正しいことばで言って聞かせるなど気長に対応しましょう。

#### ○よい面をほめましょう。

不器用でケンケンパーがうまくできなくても順番を待つて遊んでいる、絵は上手に描くことができなくても熱心に描くなど子どもたちはよい面を必ずもっています。「順番待つて並んでるよね、えらいね」、「一生懸命に描いたのがよくわかる、よい絵だね」などほめるようにしましょう。

気になる子どもが「ADHD（注意欠陥多動性障がい）」「高機能自閉症」「アスペルガー一症候群」「LD（学習障がい）」の特徴とよく似た行動を示す、保護者が気にして専門機関への相談を希望しているなどの場合には、次の『障がい別チェックシート』で子どもさんの状態をチェックしてみましょう。

### 障がい別チェックシート

チェックシートは、幼児期にはチェックできにくいLD以外は、DSM-IVや文部科学省の定義を基に、幼児の生活を考慮して作成しました。『不適応の状態を把握するチェックシート』『対人面とこだわりの状況のチェックシート』の2種類があり、それぞれADHDの定義、高機能自閉症の定義に照らし合わせています。

診断をするためのチェックシートではないことに注意していただき、園の先生方で話し合いながら記入してください。複数で記入すると、他の先生との保育ではよい行動をしていることがわかり、子どもへの有効な支援が見出せることもあります。また、場面によってはよい行動があり、その場面が支援のヒントとなることもあります。

チェックシートで「時々」「ほぼ毎日」「1日数回」にたくさん該当する場合には、専門機関への相談を検討する、出版物を参考に支援する、保護者に専門機関を紹介をするようにしましょう。

## 不適応の状態を把握するチェックシート

○年齢・性別 [ 歳 月 ] [ 男 ・ 女 ]  
 ○対象児氏名 [ ]  
 ○記入者氏名・対象児との関係 [ ]  
 ○記入年月日 [ ]

### 1 不注意

不適応の状態		不適応の例	なし	たまに	時々	ほぼ毎日	一日数回
(1)	注意を払えない	・集団や個別の活動で細かく注意を払えない					
		・何度注意しても同じミスを繰り返す					
		・注意すべきところで丁寧に行わない					
(2)	集中力を持続できない	・好きなことには極端に没頭するが、興味のないことには注意集中時間がごく短い					
		・根気がなく努力している姿が見られない					
(3)	話を聞いていない	・話しかけても聞いていない					
		・集団の中で話を正確に聞けない					
		・違うことをして話を聞いていない					
(4)	指示に従えない	・指示は理解できるのに、従えない					
		・言われたとおりのことをしない					
		・お片づけなどをさぼり、注意される					
(5)	計画性がない	・計画を立てるのが苦手					
		・無理な計画を立てて、やり遂げられない					
		・時間割が分からない					
(6)	課題を避ける	・工作等の課題を避ける、嫌う					
		・難しい課題はすぐにあきらめてしない					
		・給食の後片づけ等の決まった課題を嫌がる					
(7)	ものをなくす	・クレヨン・鉛筆・本・傘などをなくす					
		・何をどこに置いたかわからなくなる					
		・探している物が側にあっても目に入らない					
(8)	気が散る	・ちょっとした物音でもすぐに気が散る					
		・話し声や騒音等に過剰に敏感である					
		・「暑い・寒い・かゆい」等とすぐに訴える					
(9)	物忘れをする	・歯磨きや手洗等の毎日の日課でも忘れる					
		・園であったことや直前のことを忘れる					
		・翌日の準備物を覚えていない					

## 2 多動性(過活動)

不適応の状態		不適応の例	なし	たまに	時々	ほぼ毎日	一日数回
(1)	そわそわしている	・座っていて手足を動かす, 身体をクネクネさせる					
		・髪いじり・爪かみ・指しゃぶり等がある					
(2)	離席する	・一斉保育や食事中にすぐに席を離れる					
		・教室から飛び出してどこかに行ってしまう					
(3)	興奮する	・異様にはしゃぐことが多い					
		・集会の場で走り回る, 高いところによじ登ったり, 飛び降りたりする					
(4)	騒がしい	・遊んでいても騒がしく周りに迷惑をかける					
		・静かに本読み等ができない					
		・見知らぬ人にも声をかけて不快感を与える					
(5)	休みなく動き回る	・じっとしていない					
		・予想のつかないことをしでかす					
		・目的の場所こいないことが多い					
(6)	必要以上のおしゃべり	・遠慮すべきところでも, 自分のペースで不適切なほどに過剰こしゃべる					
		・教師の説明の途中や友だちの発言中もしゃべる					

## 3 衝動性

不適応の状態		不適応の例	なし	たまに	時々	ほぼ毎日	一日数回
(1)	質問を最後まで聞けない	・質問が終わらないうちに, 出し抜かれに答えてしまう, 当てられたいのに答えを言う					
		・待たずに自分の聞きたいことをすぐに聞く					
(2)	順番を待てない	・列に並んで待てない, いつも一番になりたがり, 反則をしてでも勝とうとする					
		・ルールを守れず, 周りとのトラブルが多い					
(3)	協調性が乏しい	・他人を阻止する, 邪魔をする					
		・他人の会話やゲームに割り込む					
		・気に入らないと暴力を振るう					

チェック後の見方	活用方法
<p>○表中の網掛けをしている部分にチェックがついた項目は要注意項目であり, 適切な支援を進める必要がある。</p> <p>○「不注意」「多動性-衝動性」のそれぞれの網掛け欄に6つ以上チェックがつく場合は, ADHDの不適応状態に近いと判断して, 支援方法を見直すとともに, 一度専門機関にご相談することが望ましい。</p> <p>○特別な支援や服薬開始後のチェックが, 悪化(ポイントが右側に移行)した場合は, 支援の改善, 医師への相談が必要である。</p>	<p>○不適応状態は, DSM-IVの診断基準と同じ内容にしているため, 専門医への受診相談機関に訪れる際にチェックして持参すると, その状態が短時間で伝達できる。</p> <p>○支援方法の効果を確かめるために, 1ヶ月に一度程度の定期的なチェックを行う。特に, 特別な支援や服薬を開始したときは, 1週間に1度程度のチェックもその変容の記録と分析につながる。</p> <p>○「集団の中と個別の指導での状態の比較」や「保育形態別の状態の比較」等を行い, 不適応が起こる原因分析やより効果的な支援方法を探ることに活用する。</p>



## 対人面とこだわりの状況のチェックシート

○年齢・性別 [ 歳 月 ] [ 男 ・ 女 ]  
 ○対象児氏名 [ ]  
 ○記入者氏名・対象児との関係 [ ]  
 ○記入年月日 [ ]

不適応の状態		なし	たまに	時々	ほぼ毎日	一日数回
人への反応やかかわりの乏しさ 社会的関係形成の困難さ	目と目で合図をする、身振りを使うなど非言語的な行動が少ない					
	友だちと仲よくしたいという気持ちはあるけれど、友だち関係をうまく築けない					
	友だちのそばにはいるが、一人で遊んでいる					
	仲のよい友だちがいない					
	ゲームをするとき、仲間と協力することに考えが及ばない					
	いろいろなことを話すが、そのときの場面や相手の感情や立場を理解しない					
	共感性が乏しい					
	周りの人が困惑するようなことも、配慮しないで言うてしまう					
ことばの発達の遅れ	話しことばの遅れがあり、身振りなどにより補おうとしない					
	ことばを組み合わせて、自分だけにしか分からないような造語を作る					
	会話の仕方が形式的であり、抑揚なく話したり、間合いが取れなかったりすることがある					
	「ちなみに」「いわゆる」「ようするに」「つまり」などのことばを繰り返し使う					
	その年齢に相応した変化に富んだ自発的なごっこ遊びや社会性のあるものまね遊びができない					
	大人びている、ませている					
興味や関心が狭く 特定のものにこだわること	みんなから「○○名人」「○○博士」と思われている 例：電車博士					
	他の子どもが興味を持たないようなことに興味があり、「自分だけの知識世界」をもっている					
	空想の世界（ファンタジー）に遊ぶことがあり、現実との切り替えが難しい場合がある					
	特定の分野の知識を蓄えて、披露する					
	とても得意なことがある一方で、極端に不得手なものがある					
	特定の物に執着がある					
	ある行動や考えに強くこだわることによって、簡単な日常の活動ができなくなることがある					
	自分なりの独特な日課や手順があり、変更や変化を嫌がる					
その他の特徴	意図的でなく、顔や体を動かすことがある 例：手や指をばたばたさせる					
	独特な声で話すことがある					
	独特な目つきをすることがある					
	独特な表情をしていることがある					
	独特な姿勢をしていることがある					
全般的なこと	動作やジェスチャーが不器用で、ぎこちないことがある					
	社会生活や園生活に不適応が認められる					

## 家庭・専門機関・小学校との連携

### 家庭・専門機関との連携

既に医療機関や療育機関などを受診しているような場合には、保護者は子どもの状態について理解し、支援を求めることが多くみられます。そのような場合には、保護者から子どもに関する情報を聞き、できることを実行するようにしましょう。また、保護者の承諾が得られれば、療育機関へと出向き、できることをうかがうことも大切です。

しかし、子どもの状態に気づいていない、「どこかおかしい」とは思っているが園に相談するまでにはいたっていない、気づいてはいるが否定したい気持ちがあるなど様々なタイプの保護者がいます。どのタイプであっても焦らず、関係づくりをしましょう。

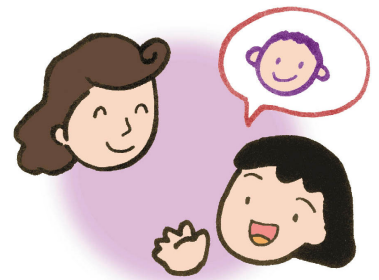
### 保護者との関係づくり

○気軽に話せる雰囲気を作りましょう。

送り迎えのときに、子どものよい面から話をするようにしましょう。気になることを伝えたい気持ちはあるでしょうが、保護者にとっては嫌なお話です。

まずは、子どものよい面や子どもの持ち物で保護者が工

夫していると思ったこと（手作りのバッグ、お弁当のおかずなど）を話題にし、『話しやすい先生』『感じのよい先生』という印象を保護者にもたせるようにしましょう。



○気になることは保護者にアイデアを求めましょう。

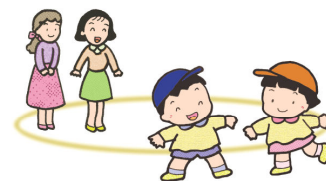
気になることを子どもや家庭の責任にせず、まずは園でいたらない点があるのではないかと投げかけることが大切です。

例えば、気に入った遊びを止めない子どもの場合、「お家ではどうしてますか？園では時間で区切るの、満足できていないかもしれません。お家の方が工夫していることを園でも取り入れてみたいです」などと保護者に習うような投げかけをしてみましょう。保護者が子どもの状態を気にしているときには、子どもの気になる行動について同意を得られることも少なくありません。

○重要なことは複数の教師のいる場で伝えましょう。

いつもよいことばかり伝えることはできません。特に、子どもが怪我をしたり、園から出てしまったりした場合などは正直に伝える必要があります。保護者にとっては、聞きたくないことですし、信じたくない気持ちもあるでしょう。ですから、あいまいな話ではなく、具体的に「いつ」「どんなときに」「どのような」行動だった

のかを知らせましょう。特に、教師がどのように対応したのかを話すことが大切です。「困ります」だけではなく、園としては努力していることを知らせましょう。また、このような内容を話すときは、必ず複数の教師がいる場で話し、行き違いにならないよう配慮しましょう。



#### ○保護者の気持ちに寄り添いましょう。

子どもの行動を「まだ幼いから」「家ではしないから」と深刻に考えようとしない保護者がいます。また、「そんなはずはない」と否定する保護者もいます。保育参観や日々の連絡などで子どもの気になる行動を知らせることは大切ですが、そのことばかりを焦らず、目の前の子どもへの支援を実行することです。気になる子どもの場合、周囲の保護者などから困った子どもという目で見られたり、家庭でのしつけを疑われたりすることもあり、保護者自身が不安定になっているケースも少なくありません。保護者の気持ちに寄り添うようにしましょう。

#### ○プラスの面を求める専門機関への連携にしましょう。

十分に保護者との関係づくりができた場合でも、医療機関への紹介は「宣告」を受けるといった気持ちになったという保護者もいます。診断を受けることだけに重点を置くことが大切ではありません。「子どもへの支援を知り、よりよい方向へ進むためのチャンス」と考え、その後の支援が重要なことを認識しておきましょう。そのため、保護者へは「よりよい方向へ進むためのチャンス」で、専門機関から支援に関する情報を得て、保護者と園とが協力して支援するための方法として関係機関への連携の重要性を説明するようにしましょう。

### 小学校との連携

初めて会う先生、友だち、これまでの生活時間との違いや学習するという体制に、どの子どもたちも慣れるまでにとっても時間がかかります。小学校の教師もこれまでたくさん子どもたちを受け入れていますので、十分な配慮をしていますが、それでも、園で実施してきた保育の方法や配慮してきたことなど小学校へと連絡をしておく、子どもたちは、よりスムーズに小学校生活をスタートできます。

幼小連絡会などいろいろな場で、子どもの気になる行動とその原因、支援策を知らせておくことが大切です。また、できれば書面で伝えると、その後、小学校でも場面ごとに書き加えたり、修正をしたりして、たくさんの支援策が蓄積されることになります。

そこで、小学校への連携に必要な内容をまとめた連携シートを作成しました。できれば保護者に内容を確認していただき、その後、小学校へ渡すようにしましょう。

<連携シート>

平成 年 月 日作成

氏名				保護者氏名			記録者	
性別		生年月日			年齢		診断名	
生育歴	<input type="radio"/> 1歳半検診 <input type="radio"/> 3歳児検診 <input type="radio"/> その他							
各種検査						保護者の要望(願い等)		
【検査の種類】			【検査の種類】					
【検査年月日】			【検査年月日】					
【検査の結果】			【検査の結果】					
【特記事項】			【特記事項】					
医療・相談機関との連携の有無								
連 携 ( 有 ・ 無 )					連 携 ( 有 ・ 無 )			
【医療機関名①】					【相談機関名①】			
【服薬等、医療機関からの情報】					【相談機関からの情報】			
【医療機関名②】					【相談機関名②】			
【服薬等、医療機関からの情報】					【相談機関からの情報】			
園と保護者の連携の経過					園からの要望			

子どもの実態等				
	生活面	行動面	対人面	話す・聞く・書く・かず等
課題				
支援				
変容				

## おわりに

落ち着きがないと相談に来た4歳の子どもさんは、保護者と幼稚園の先生とが支援に取り組みました。その後、小学校への入学時にお会いすると「まだまだ落ち着きがないです。でも、あのころが笑い話のようです」とお話してくださいました。

また、毎朝お決まりの登園コースのある5歳の子どもさんは、側溝のふたを毎日一つ一つ踏みながら行くのでとても時間がかかることで困っていました。「子どもにとっては一日のスタートが気持ちよくできるための趣味ですから、早めに家を出て十分楽しませたら」とお話し、お家の方に少し努力していただきました。止めさせることに一生懸命だったお家の方が、一緒に楽しみながら「いち、にい…」と数えて登園することで落ち着いて過ごし、いつの間にか側溝を踏まなくても登園するようになりました。

子どもたちは、みんな違っています。生まれた月も家庭環境も違い、よい面も気になる面もあってこそ人間です。でも、大人はその違いを気にして、同じように育てようとしてしまいます。一人一人みんな違うことを忘れずに、そしてどの子もすばらしい可能性をもっていること、その可能性を伸ばすのは周囲の大人の役割であることを忘れずにいたいものです。

気になる子どもと出会い、どうしたらよいだらうと迷ったときに、この『支援の手引き～幼稚園版～』を開いていただけたらと思っています。

大分県教育センター 特別支援教育部

後藤みゆき 横山勝也 下村智子 梶原直樹 古庄一夫





## 参考文献

- (1) 田中康雄監修「わかってほしい！気になる子」 G a k k e n 2006
- (2) 野呂文行著 「園での『気になる子』対応ガイド」 ひかりのくに 2006
- (3) 吉田昌雄・川北敏晴監修 土橋圭子文「LD（学習障害）、ADHD（注意欠陥/多動性障害）の友だち」 金の星社 2005
- (4) 柘植雅義編集「教職研修 これならできる“LD・ADHD・高機能自閉症への対応”」教育開発研究所 2006
- (5) 小田豊著「幼稚園教育の基本」小学館 1999
- (6) 尾崎洋一郎、草野和子、中村敦、池田英俊著 「学習障害（LD）及びその周辺の子どもたち」 同成社 2003
- (7) 尾崎洋一郎、池田英俊、錦戸恵子、草野和子著 「ADHD及びその周辺の子どもたち」 同成社 2002
- (8) 尾崎洋一郎、草野和子著 「高機能自閉症・アスペルガー症候群及びその周辺の子どもたち」 同成社 2005
- (9) 大分県教育委員会 「平成15・16年度特別支援教育推進体制モデル事業 小・中学校における軽度発達障害児の支援体制の整備 vol. 1」
- (10) 大分県教育委員会 「平成17年度特別支援教育推進体制モデル事業 小・中学校における軽度発達障がい児の支援体制の整備 vol. 2」

## 使用イラスト

- ・「そのままつかえる[教育デザイン]資料集 CD-ROM版 B」出町書房
- ・「保育カットCD-ROM」マール社